

© The Tiffen Company, 2000

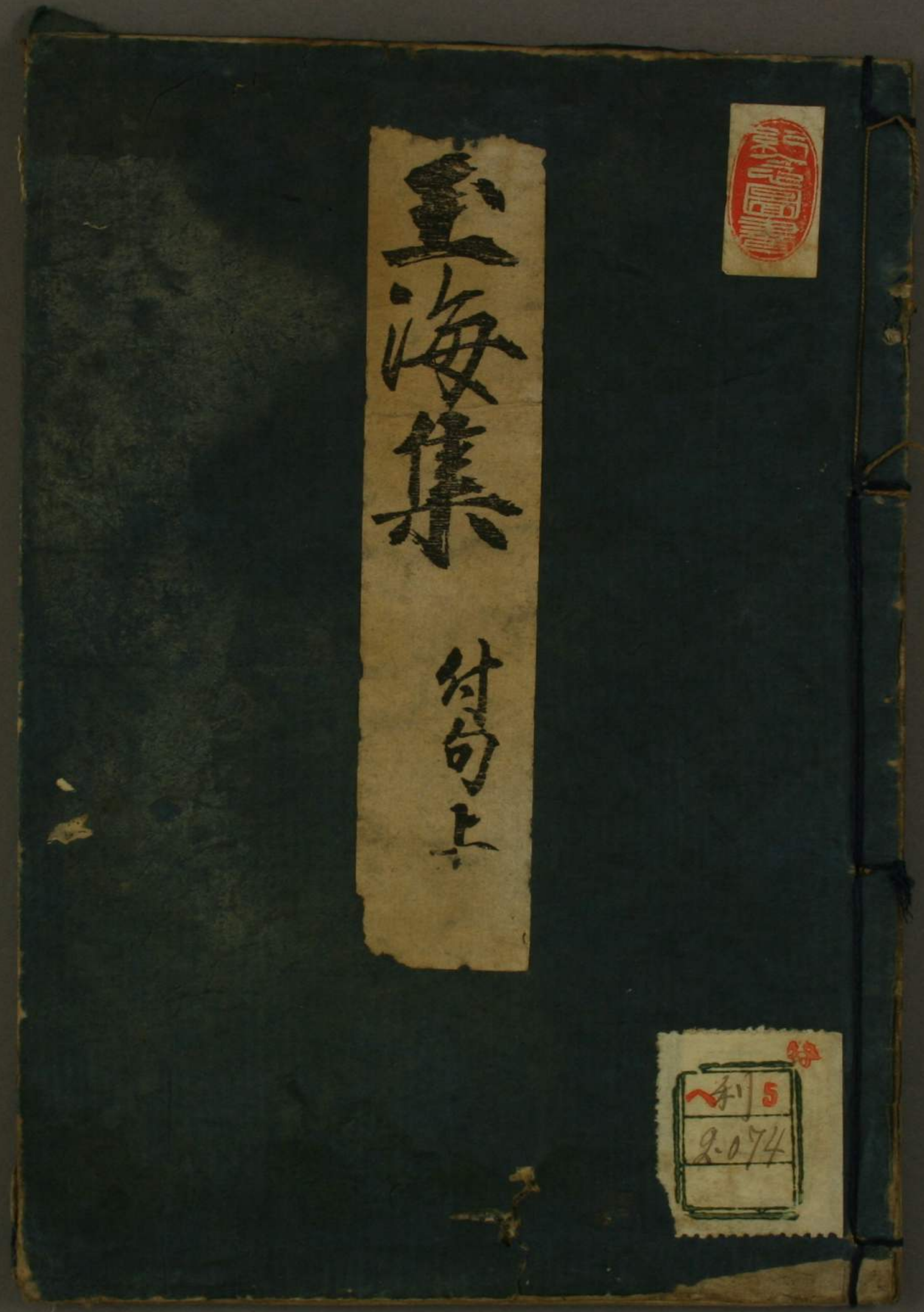
NUDAN Color Control Patches

NUDAN  
LICENSED PRODUCT

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 B 13 14 15 17 18 19



玉海集  
付句上

利 5  
2.074



格  
5  
2074

揚ぐ早も 揚ぐ早も 揚ぐ早も  
も 揚ぐ早も 揚ぐ早も 揚ぐ早も  
揚ぐ早も 揚ぐ早も 揚ぐ早も

四 四

子

揚ぐ早も 揚ぐ早も 揚ぐ早も  
揚ぐ早も 揚ぐ早も 揚ぐ早も

春久揚

氏海時在也揚十



子

玉海集付句卷上

春之部



夜のたふれあふ任作りけり時  
石おとる無ふじすひて獨吟ふ  
百韻はらひ承作りけり整ふ

また川ハ衣乃棚にゆかりんう那

あしゆく小路乃針に永日

場乃町や志未よ馬れ血ととりて

貞徳



日 日

紹巴法橋のたふらひり連歌に  
付ふとまきとらるるさうりあきさ  
門才虫集めんとしよふとゆきて  
我ふと虫援ゆらひあひひきて  
打越のふより記してよ連歌ハ  
た打越の心とらるりてこそ  
作者の難養も又粉骨と  
あふられゆれとやされり  
老師たふし終るるひり



花やうれ勅書ひらけハ針ヒ文字

貞徳

灯心とやそくして待まればお

跡香あれいあうとさる路入

かゝ木丸ふ山さるらふ候そひて

のせぬノ香炉乃置れまらさよ

正月乃もちといふふハめてたや

去年ハゆきき一齒そはるなる

ながけととも具足乃袖よ汲糸

よくこそいといふ廿日日月

日 日 日 日 日

琴とさうらや大鼓うらや

教どののととりあそりす花の出

鳴さるふ人な船やたてぬめり

遣唐使のよ色出まふかかい瘡

美大豆や花乃葉葉あつと

詠めたるや大嶺乃月

前鬼とも花乃都へたまき

先師慈

身とあふハさるいかりなり

日 日 日 日 日

花入よ志川花と氷どうらそき

和而郡山都藤  
云成

梅のあさりかむひめん

らん福んところのよふ雪は似て

日

いとゆにらもつまてまゆふ

蝶々柳さくらさくらよとひうり

濃而山端氏  
葵哉

花乃もしたちつてゆらりり言

初連より紙ハ志もふ宗近

日

常もなんや藤々やたつねえ

ういー極たり庭乃紅梅

日

まのさ乃梅よさめあらしふ

大坂本村氏

誰波人こくらに眩とる乃比

重頼

愚判

妻乃清瀬ハいうふ鹿相子

淡子ふ志さる暇未乃魚れし

重利

行一あふ湯乃うき急こころ

濃而山端氏

かくらふ自志ろふ花とらる花

葵哉

さくも下子けお困甚のせんき

郡山池田氏

入てもてさるぬのあふさくら

正式

天氣のそけきけふ乃ハクウ

官軍ハ花乃少きれ鎮さして

春日野に尾終る物と捨てたり

若むしうき乃すりこ木のれ

花乃波にゆふれ声もひきき

若咲陰りし志あつさうりり

すの物と立ぬひぬり笑ひく

松乃そんがらとふハ心から

さうらうとゆまわりのハもあじ

日

日

伴賀上野松委

未友

熊野那智住

道諱

秘藏よにねふ庭乃えれの枝

幕をられ花よたられ舞とまひ

胡蝶飛りふころれ野あそひ

景ハ少しれ雪よ花見ハ幕つ

大さうつさ乃むしう野のま

流さきに咲出り花ハやらみと

辨才天氣のころか海花くら

き山の新もや祓乃よまみ

吹けりかりや鳥よまのそ

熊野那智住

如海

播磨姫路住

史云

それ中若

梅盛

播磨見符住

頼重

大友提山氏

保友

まよやうとあつてすまやうや

越前福井山氏  
文清

去年よりと濁出わら井戸の水

越前福井住  
吉昌

洗濯衣乃紅粉けかすめり

去年よりとあつて疱瘡のやまり

心のとうふとれとあんす你

播磨吉田氏  
勝政

ま乃目れらうもあつて連立て

とつとるやとるれ目乃あ

教員野原氏  
定利

小便ハせ様ともと門乃ねさうり

いそげくくととめくね言

明日ハちらん乃あいさ行てまま花

京友茶菘木氏  
宗真

まういあま乃葉天物とやう

花よあらふ枝乃さえこの穢の尻

惠佐

か舟乃さとりさきそめてたき

香頼屋  
政信

赤よいらる花ハ沸成れ用えそ

年と目と此翼乃をうらな

青地氏  
可頼

さくハせ理乃むめ乃えさく

思なるもさうかよと

物の作ふ花あらせん色脚此沸

日



人形をいしてうすうすの回

かす免くは七年乃とい目れ徳言ふ

回うへ乃も縁とすう善れ友

長栄あもと常盤清前とててて

まろく久おわとて常とてあきとて

をこいつ乃急とさうつておむく

ひめとせれ花より外の御も

そふこもてわやつむとてうこ草

修り捨てたとゆへんすう袖

日

隈先

李吟

日

花鳥乃巢ハ何人かまうらん

海老れそや伴勢の沸きたれ鏡餅

ととと釣てと釣いとてあかすのこ

正章母三十三回忌追善

散一木母とあふみと一絲陀佛

幾ま口一りほむり丁蘭

めりえてもくに餅花れま

躑躅はく山ゆたをくかへら

万葉系乃小はくん乃考

正章子

元次

貞室

日

日

うしり付も菊くわりのまを深くと

日

夏之部

鹿やそれやうれ新やすうり

瓶子乃酒とのむぬ月園

くろくもてうへー早苗の夜糸七

冥途よて落す洞や志げがん

夏そのいとせふななくかむき次

油断して極田の吹とすこすまよ

日

貞徳

河部氏のなふりー郭と

名付てむとーたまふめは

茶つふと説して一好しき

より一雨やせうきけりなふ

○名のれ名とあくへきつわを郭云

あなたちとれ乃ふりよ前裁

清明うふりーた松ハ枝ありて

つるさてうふも女猫あへ

法花ちれ屋の牡丹の花さうり

日

日

日

貞徳

啼—このかきまらさねやあまの月

とりよ正章あたるよとあかき

脇白

一にさりあつゆふなら乃雲

日

先作珠

又衣乃里ハあきそさひき

卯月多月日と人垣たよ志西に

可頼

乃乃くも皆さあさ坊まよて

富よまきひ枚子乃実そあは

紀列揚浦

正心

あは柳乃昔ハあえん

濃助山端氏

道野多乃清水此うささくら兼

志成

これあまハ今うさ同—其茶碗

中嶋内丸氏

かとはくくてももの心あ葉散

貞晨

愚判

葉つらや福地乃園此富美

恵佐

白龍出ら庵乃な川かけ

やとさすせいさくすもりあ

敦賀野津氏

定利

愚焼ふ志てしとさうや智く事次

郡山池原

百さうとや心かこもさう乃あり

正武

あふ粒忽とみゆりその志あり

弟類屋

まひとて何もさうよは縁こも蚊屋内

政信

おれ蚊の声よあけこ宿屋れ戸

堀山吉屋内

口たぐ柳れ水鶴人よりあて

保友

目出度るり乃うすい志れと

播磨垣内氏

いさよま山楸やわいぬん

史玄

親と子とあらしこちこひききて

あらし扇子の不福やといあふ

河内と井田海

長徳

十六人いわさす少れちむ

と池氏

可頼

うさ縁ハお定喰こにえいそ

ひさち地いさも尋常より引て

貞室

田としをほられまうきよし女

あらしまわ時と見んりる若楓

産乃疎と産配おろしき

日

賀列大橋氏可理とそ人乃

日

教白よ

天乃時六地代利よ志うね氷室片  
人乃ころろよ和して涼風

秋之部

おもひ乃やうよ酒うれたり  
親よよくあはれう人の羨れ若  
ちいらさき志うや矣りいさるえ  
三ヶ月いさふりいさき眉小ぼて

柳乃木間出来は初秋

門口は極しや早稲乃米ふらん  
月夜の山一の腹よこそあけ  
細う福たあといろくおちてきを  
まろく乃山此あき乃大風  
月かけよきなかへはぬを身  
ろくろととろよ輝乃夜普徳  
お体よ不まいうやあす乃紅葉物  
まわりして臘もあくれ次  
雑めと乃係と志う念わあき

日

貞徳

日

日

日

日

日

日

めつらひさしやふさうのきれ歌

日

仲業入はけつさときをみえよれ

ちうー完まてかゆ草乃業

日

あおて月あそとゆり宇津の山

日

花火れうすはるやく繪畫する

寅く一秋の野原乃屋あを

日

ひんくとうくひんきたたまき

鶴鶴乃尾れさゆり秋乃野

日

名下の能務摺吟みけり肉

日

老曾れ森り一遠あをせん

月夜あも通ちまひるよ不破丸園

日

伊吹抄りもあめまね小袖

日

いけたふとや志わらま乃下

湊磨乃浦すまねたれねあ月あふ

あーれ月よあそとららねり

日

先師歌

あがもなむねんかすいりや

あよすまはる海まてたけ

郡山郡民

云成

三よしの山に花のよもぎをさかす

杉列大政住

重頼

月清のあまにむすことすかき

とどろふいとけりかひたは

中嶋内蔵

貞辰

むすぶことすてわり針さみりて

愚判

七夕はあやとりてたしあむ

敦賀縣民

定利

初秋の暮會のえんをれり

蚊のきりあともてりけり御料人

首類屋

政信

あつともさふなうねうつき

飼ぬる鳥とにうすあきこれ

遠列梅水

吉清

月清き時心家とたもひり

志まわくあはありあや

按加太政大臣

宗清

ゆりくことあやとくはは條原に

あま水よまう文字はねんせ

越前福井

竹雪

平砂乃原に立あははそら

たよま川白り晨明の月

屋續

秋の初よは氏乃は葉とるひ

あふあめてるる葉やひら

初は出らざるをばらうらうの舟あそび

大坂橋山氏

保友

あつらひのつまらざるをばら

平尾小宗

華以

少くもつらうつら鹿の舌はあそび

らふよきつらうら秋乃出かたり

郡山池田氏

正式

名月よ入日のあけをあそび

隣つらうつらあそびあらそび

勢利幸會寺

昌杞

ゆふよふあそびやあそびあそび

小頸かして月そかりむら

漢文よ思あそび乃あそび

曰

あつらひのつまらざるをばら

三池氏

可頼

立あてみりかあそび

煙とたててはらう勝線波

取ひすふ相撲の場てのむな

曰

あつらひのつまらざるをばら

あつらひのつまらざるをばら

惠佐

あつらひのつまらざるをばら

曰

秋の夜あつらひもあつらひ



薄乃名かみんこがうけよまどひうけ  
季吟

あさりどろろこひさきとら祈り抱

志よわぬれいよとられ家よ縮るき  
日

霧もやせせすこむ矢母もて

冷—きこまうはくせとの—られ  
日

老病やあまたのこなくみえん

志わけて氣—のわら物かか  
貞室

秋とてや律儀とらる風のも

何とうしてもあすもあれりた  
日

月さ—うけりる海乃かろ紙

催馬糸乃律れ—くまきよまて  
貞室

土鯨おきとらありくえうもれ

鯨尾乃刀と月よ—こたへて  
日

いうそろり挟まこ小海乃面あり

つかり乃よまみゆる月が—  
日

天冠乃か—もせり菊は花

天長く千ひと蒼海や輝れ月

少—志をんのとまれゆよあ  
日

玉虫やまじり白粉乃花は家  
 かのつけ蜻蛉あそみ秋乃野  
 せりしうみ疎せし方家ありて  
 かけはうつしうつゆ物うらさ  
 夜とちちハ腹入りあらうよ  
 物かり此啼わされるをけりて  
 るひくあかりにみゆり本飛  
 九列乃地よりあそころ秋の風  
 家そしう先けりねとこふと

日  
 日  
 日  
 日  
 日

秋風のつけはあらしあう琴此塔  
 蟹のやうは秋山たぐさのわり  
 うはしれもみらまらともみん  
 大酒ふ西神なくも給志ひて  
 基盤もくくはあ中とるあり  
 髪そすれ旅ひは月やあけねん

日  
 日  
 日

冬之部

髪そすれ旅ひは月やあけねん

ひびきたらうすしするや相とあり

池水の月ようけりたりたうけり

貞徳

深きもやふれて後ふさるるえ

を根より入し古家乃りせ

森じしるものわざぬ時多の本葉まで

日

しよひのちり八十八粒さきあらん

茶園とそれとあおかりひせり

日

顔ならんとよりけ髪うるひりて

せきしそりともうはるこわひわり

日

先作熱

かふそこのことあつてあそや

濃烈温氏

そよくと草のれ葉は風さえて

花野成

ゆくはきくもあつてあそや

播列雄法温氏

あつてと下野されと雪れ中

変云

愚判

まられとまじりまはあつてあそや

とりつめし深谷れ庵乃あつて

播列三任 重香

例よたつてぬらねん川霧

い冬ハ腹乃ワシるんもさあつらす

播列三平井氏  
正重

秋もくれぬと致しそいよくれ

そあぢふ菊ハすりそと枯果て

但列生野吉龍氏  
雪之

雪よまわらぬとこらりく

利發さうふ殿ハ鷹とて子小居て

惠佐

大雪ありにと海りこり 僧

おろめそとつひもすうたき米て

播列三平住  
天下

のりもつめさの丹波路

坂乃若れおひくとささ雪乃日小

播列三平若氏  
勝盛

時あゝぬ花らんねやほんえ海

地りうとあましく糊雪みの電

大は握山氏  
保友

あす秋も床とさひりよさり

あつげなく降也鉄炮乃玉阿れ

重利

鶏乃まのやひと抱いすえ

え方へまのりさしとさろ人

児玉三郎共氏  
貞利

もれうぬひあつせろまめ男

爺さうい寝た中くのみす

吉地氏  
可頼

室の巾日走山よららのあり

酒せあらまきてみるやちり

季吟

ちりとうく幕のちり乃嵐うあ

氷乃泥ハ月一りむらこも

貞室

山城ハちりとうく乃ちり水

河内乃川やこほり冬乃日

日

今てゆえそのちり山乃ちり声

とまり鷹野ハちり外もせす

日

若火たたくあちりちりゆん

あちりちりちりひりすひりす

日

